






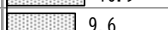
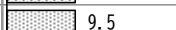
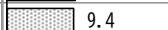
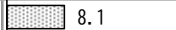
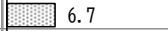
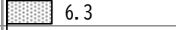
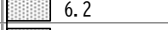
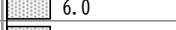
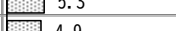
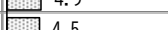
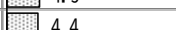
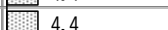
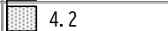











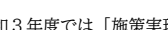


1 県政への要望

(1) 県政への要望

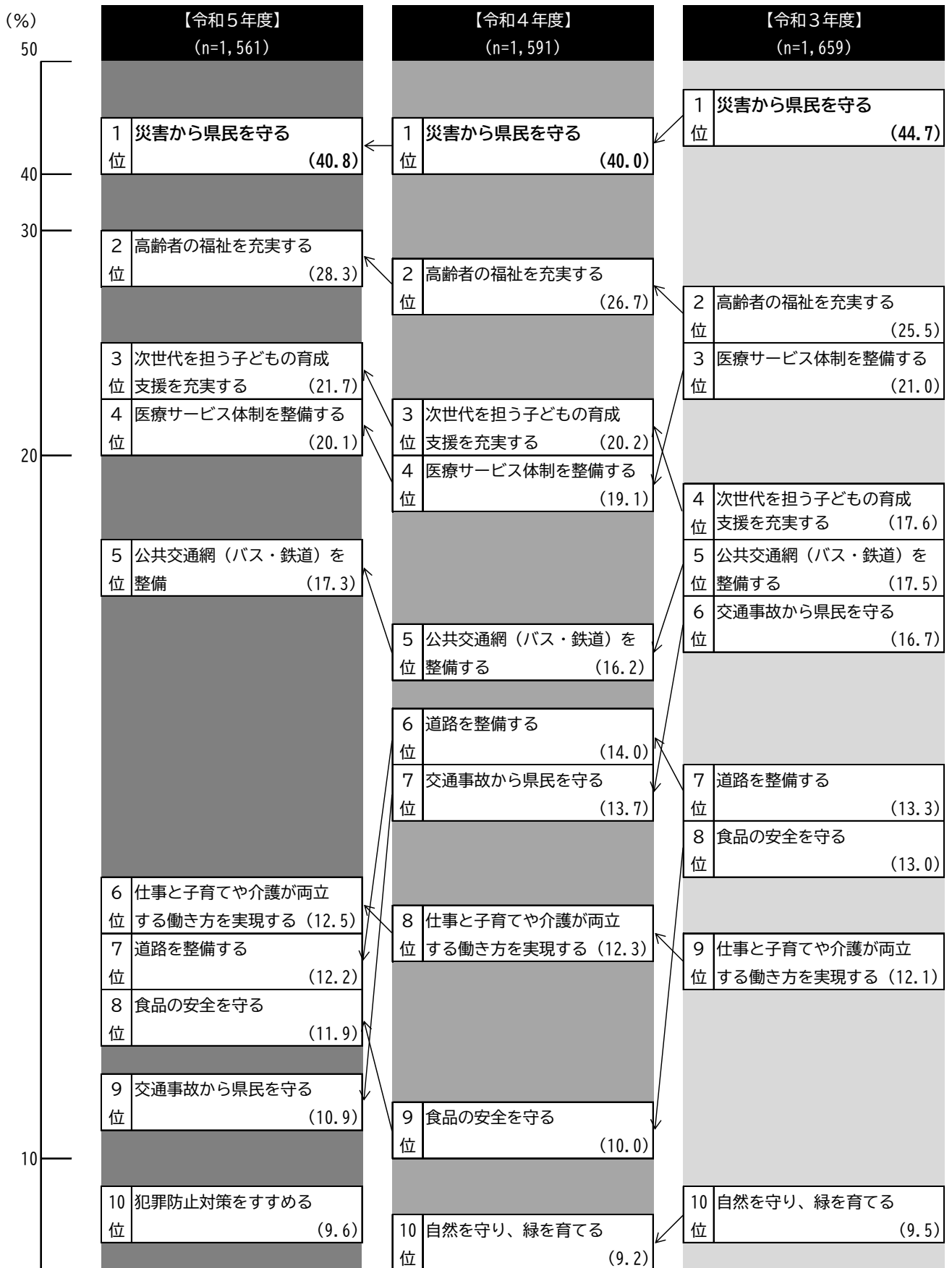
(複数回答:3つまで)

項目	順位	n=1,561					n=1,591		n=1,659		
		0	10	20	30	40	50(%)	前回 (令和4年度)	前々回 (令和3年度)		
災害から県民を守る	1位						40.8	1位	40.0	1位	44.7
高齢者の福祉を充実する	2位						28.3	2位	26.7	2位	25.5
次世代を担う子どもの育成支援を充実する	3位						21.7	3位	20.2	4位	17.6
医療サービス体制を整備する	4位						20.1	4位	19.1	3位	21.0
公共交通網(バス・鉄道)を整備する	5位						17.3	5位	16.2	5位	17.5
仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	6位						12.5	8位	12.3	9位	12.1
道路を整備する	7位						12.2	6位	14.0	7位	13.3
食品の安全を守る	8位						11.9	9位	10.0	8位	13.0
交通事故から県民を守る	9位						10.9	7位	13.7	6位	16.7
犯罪防止対策をすすめる	10位						9.6	12位	8.9	11位	9.2
温暖化対策、循環型社会を推進する	11位						9.5	13位	8.7	21位	3.9
自然を守り、緑を育てる	12位						9.4	10位	9.2	10位	9.5
障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	13位						8.1	11位	9.2	13位	7.7
安心して飲める良質な水道水を供給する	14位						6.7	20位	5.3	16位	5.5
健康づくりをすすめて、病気を予防する	15位						6.3	17位	5.5	19位	5.2
ひとり親家庭等の福祉を充実する	16位						6.2	15位	6.2	15位	5.7
雇用の場を広げる	17位						6.0	14位	7.4	12位	7.9
学校教育を充実する	18位						6.0	16位	5.9	17位	5.4
消費生活のトラブルに関する対策をすすめる	19位						5.3	21位	4.7	23位	3.6
中心市街地の活性化を推進する	20位						4.9	17位	5.5	18位	5.3
公園・緑地を整備する	21位						4.5	24位	4.3	26位	3.4
大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	22位						4.4	22位	4.6	14位	6.0
観光を振興する	22位						4.4	28位	3.5	27位	3.2
下水道を整備する	24位						4.2	27位	3.6	20位	5.1
青少年を健全に育てる	25位						4.2	17位	5.5	22位	3.8
廃棄物対策をすすめる	26位						3.9	26位	4.0	24位	3.5
農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	27位						3.7	29位	3.1	24位	3.5
豊かな住生活を実現する	28位						3.6	23位	4.4	34位	1.3
商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	29位						2.9	25位	4.0	28位	2.8
芸術・文化活動を振興する	30位						2.8	31位	2.5	29位	2.4
生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	31位						2.6	30位	2.9	30位	2.3
国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	32位						2.1	34位	1.9	31位	1.6
男女共同参画を推進する	33位						1.5	33位	2.1	33位	1.5
施策実現や地域活性化のためにDX(*)を推進する	33位						1.5	32位	2.2	31位	1.6
地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する	35位						1.4	35位	1.1	35位	1.0
その他							2.0		1.8		2.1
要望はない							1.2		1.3		1.3
無回答							0.7		0.4		1.0

(注) 「温暖化対策、循環型社会を推進する」は令和3年度では「循環型社会を推進する」
「豊かな住生活を実現する」は令和3年度では「住宅対策を充実する」
「施策実現や地域活性化のためにDX(*)を推進する」は令和4年度及び令和3年度では「施策実現や地域活性化のためのICT(情報通信技術)の利活用をすすめる」
(*) DX=デジタルトランスフォーメーション

- 「災害から県民を守る」は平成23年度から1位となっており、2位以下に比べて高い傾向が続いている。
- 「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」(21.7%)は、前回初めて3位に上がり、今回も引き続き3位となっている。

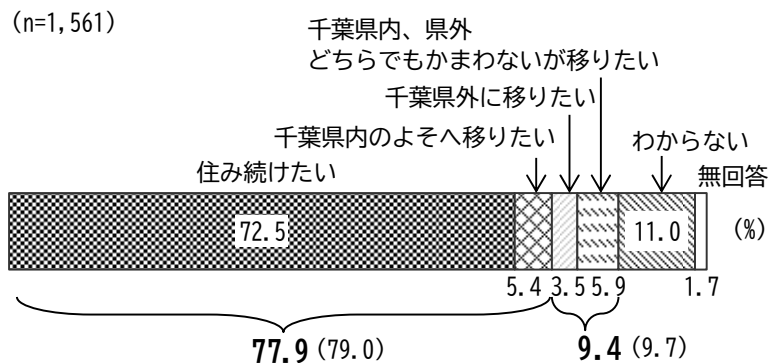
■ 県政への要望／上位10項目の推移



(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(72.5%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(5.4%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(77.9%)が約8割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(3.5%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(5.9%)を合わせた『移りたい(計)』(9.4%)が約1割となっている。

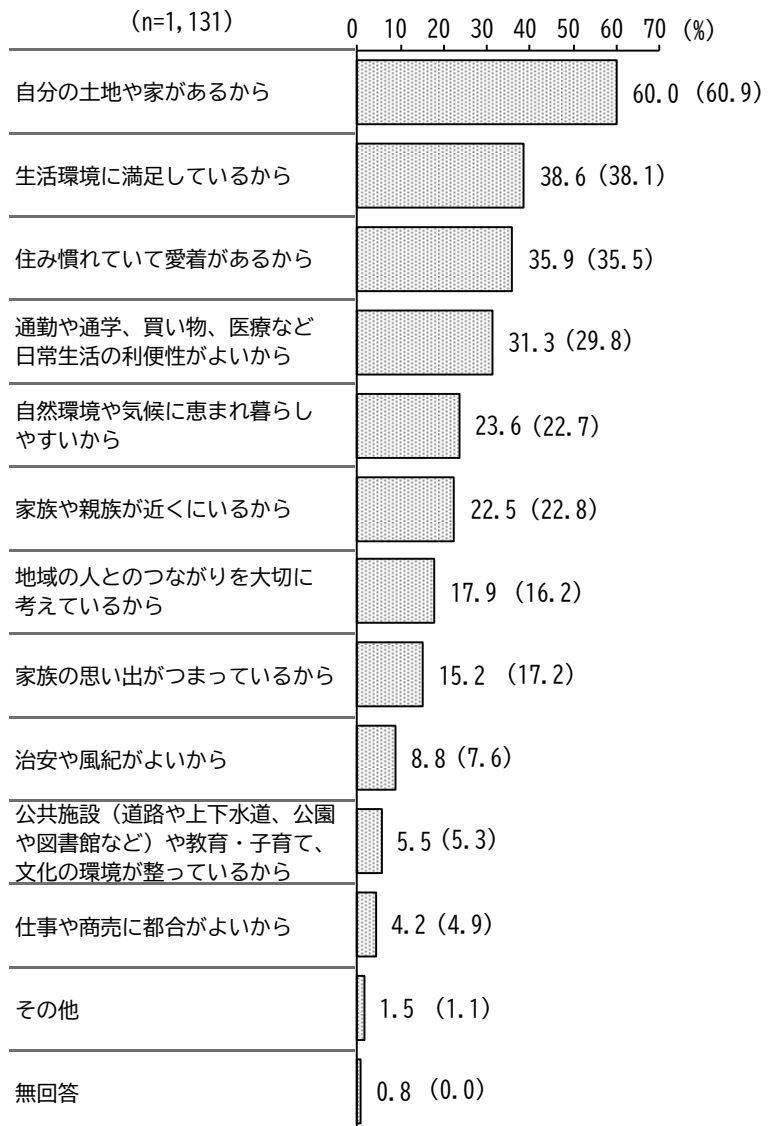


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1-1) 住み続けたい理由

(複数回答:3つまで)

「住み続けたい」と回答した1,131人を対象に、住み続けたい理由を聞いたところ、「自分の土地や家があるから」(60.0%)が6割で最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(38.6%)、「住み慣れていて愛着があるから」(35.9%)、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」(31.3%)が続く。

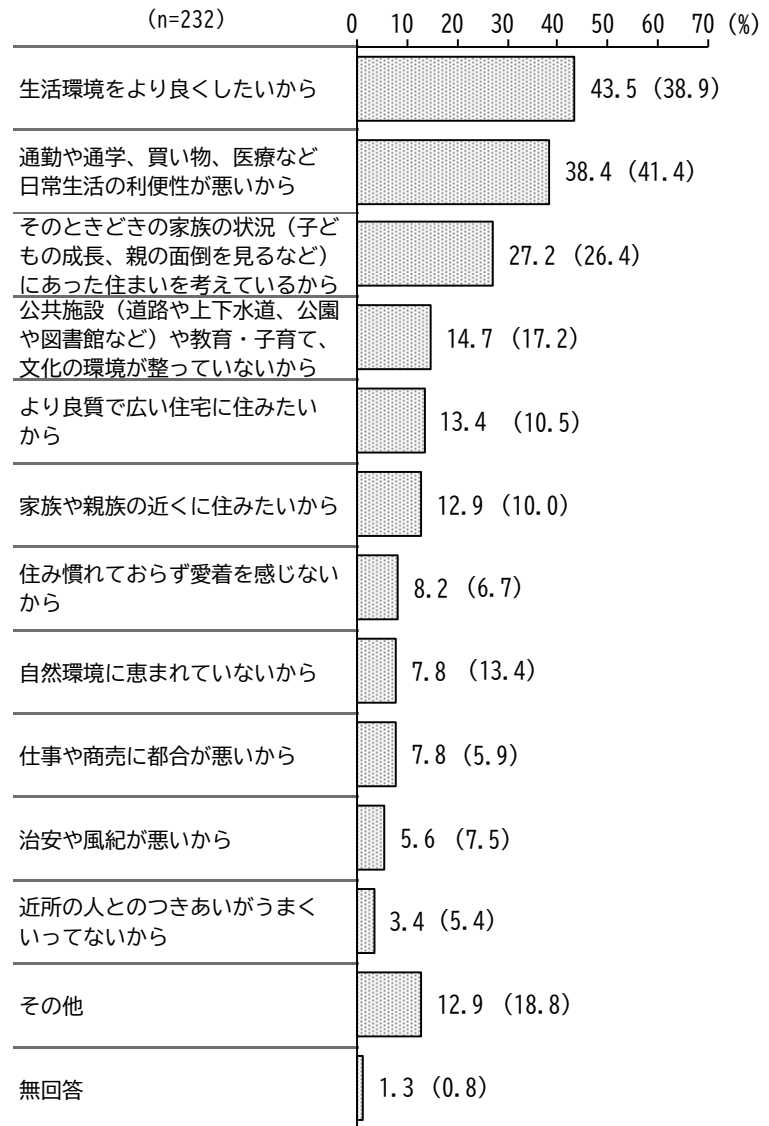


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1-2)移りたい理由

(複数回答:3つまで)

「移りたい」と回答した232人を対象に、移りたい理由を聞いたところ、「生活環境をより良くしたいから」(43.5%)が4割台半ばで最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」(38.4%)、「そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)にあった住まいを考えているから」(27.2%)、「公共施設(道路や上下水道、公園や図書館など)や教育・子育て、文化の環境が整っていないから」(14.7%)が続く。

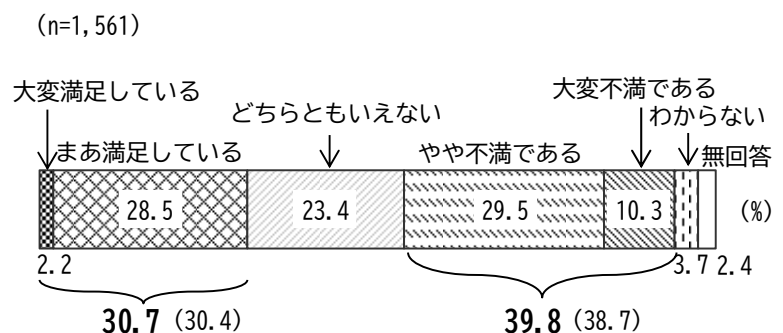


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2)県内の道路状況の満足度

県内の道路状況の満足度を聞いたところ、「大変満足している」(2.2%)と「まあ満足している」(28.5%)を合わせた『満足している(計)』(30.7%)が3割となっている。

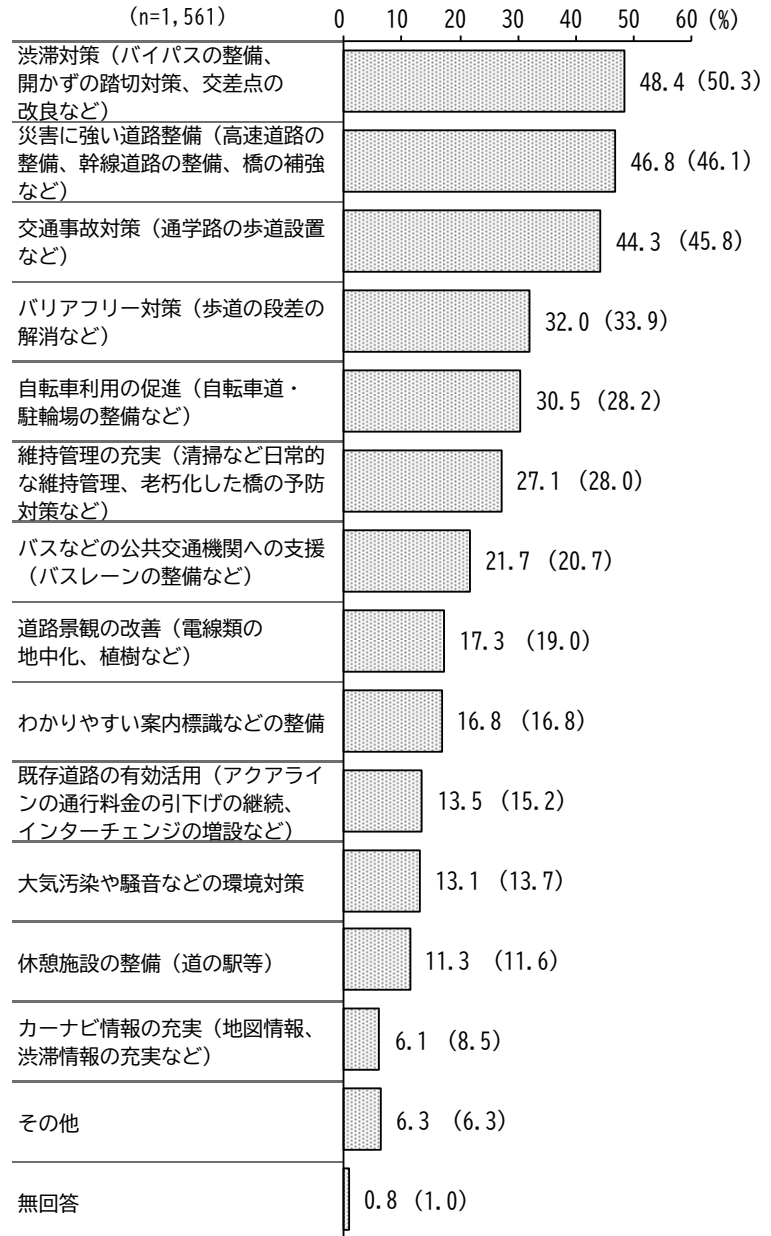
一方、「やや不満である」(29.5%)と「大変不満である」(10.3%)を合わせた『不満である(計)』(39.8%)は約4割となっている。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(3) 今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題

今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題を聞いたところ、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」（48.4%）が約5割で最も高く、以下、「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」（46.8%）、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」（44.3%）、「バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）」（32.0%）が続く。

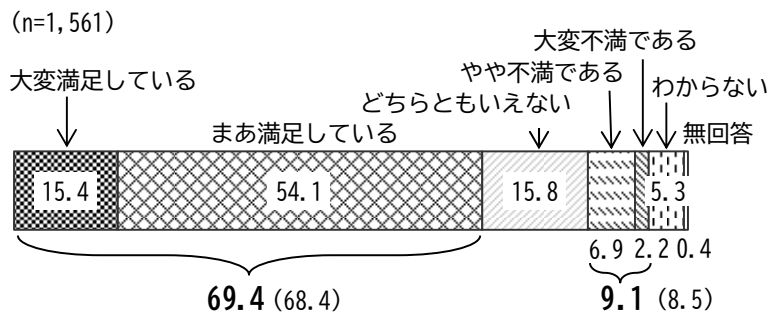


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(4) 上水道の整備の満足度

現在お住まいの地域の上水道の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」(15.4%)と「まあ満足している」(54.1%)を合わせた『満足している(計)』(69.4%)が約7割となっている。

一方、「やや不満である」(6.9%)と「大変不満である」(2.2%)を合わせた『不満である(計)』(9.1%)が約1割となっている。



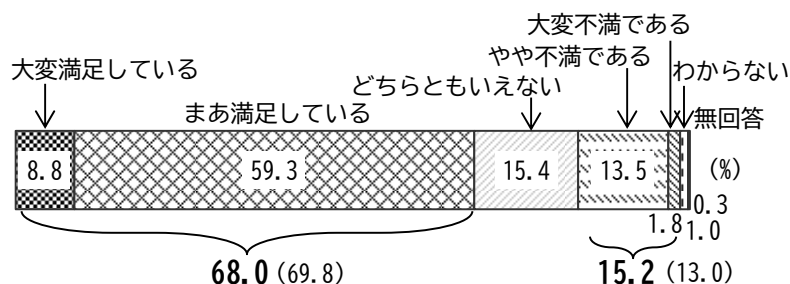
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(5)住生活全般の満足度

現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（8.8%）と「まあ満足している」（59.3%）を合わせた『満足している（計）』（68.0%）が約7割となっている。

一方、「やや不満である」（13.5%）と「大変不満である」（1.8%）を合わせた『不満である（計）』（15.2%）が1割台半ばとなっている。

(n=1,561)



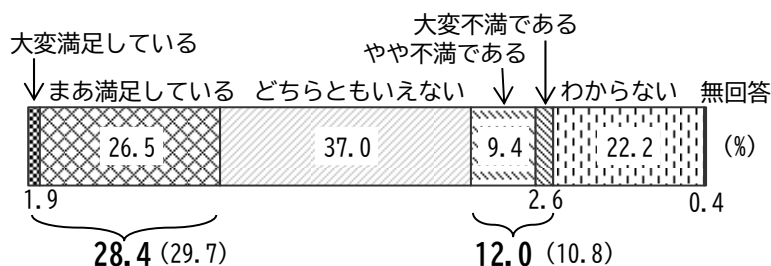
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(6)消費生活全般の満足度

消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.9%）と「まあ満足している」（26.5%）を合わせた『満足している（計）』（28.4%）が約3割となっている。

一方、「やや不満である」（9.4%）と「大変不満である」（2.6%）を合わせた『不満である（計）』（12.0%）が1割を超えている。

(n=1,561)



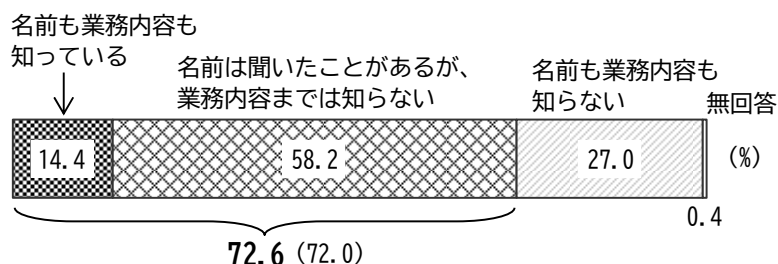
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(7)「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っているか聞いたところ、「名前も業務内容も知っている」（14.4%）と「名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない」（58.2%）を合わせた『名前を聞いたことがある（計）』（72.6%）が7割を超えている。

一方、「名前も業務内容も知らない」（27.0%）が約3割となっている。

(n=1,561)

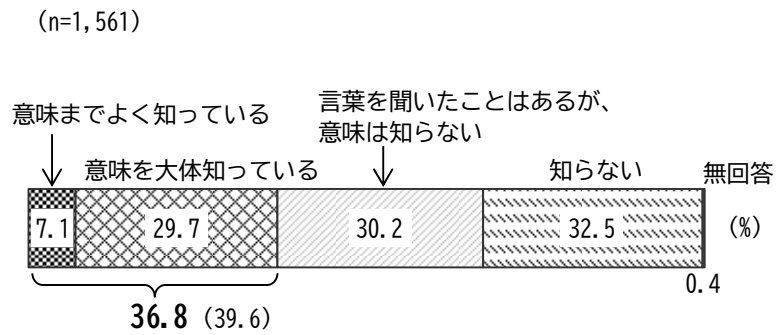


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(8)「気候変動による影響への適応」の認知度

「気候変動による影響への適応」について、その認知度を聞いたところ、「意味までよく知っている」(7.1%)と「意味を大体知っている」(29.7%)を合わせた『意味を知っている(計)』(36.8%)が3割台半ばとなっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(30.2%)は3割、「知らない」(32.5%)は3割を超えている。

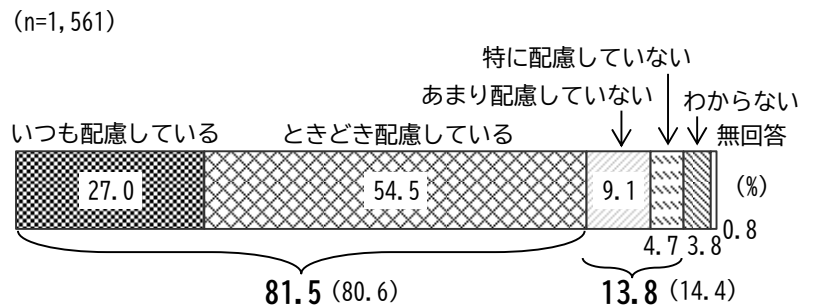


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(9)環境に配慮した行動

日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」(27.0%)と「ときどき配慮している」(54.5%)を合わせた『配慮している(計)』(81.5%)が8割を超えている。

一方、「あまり配慮していない」(9.1%)と「特に配慮していない」(4.7%)を合わせた『配慮していない(計)』(13.8%)が1割台半ばとなっている。

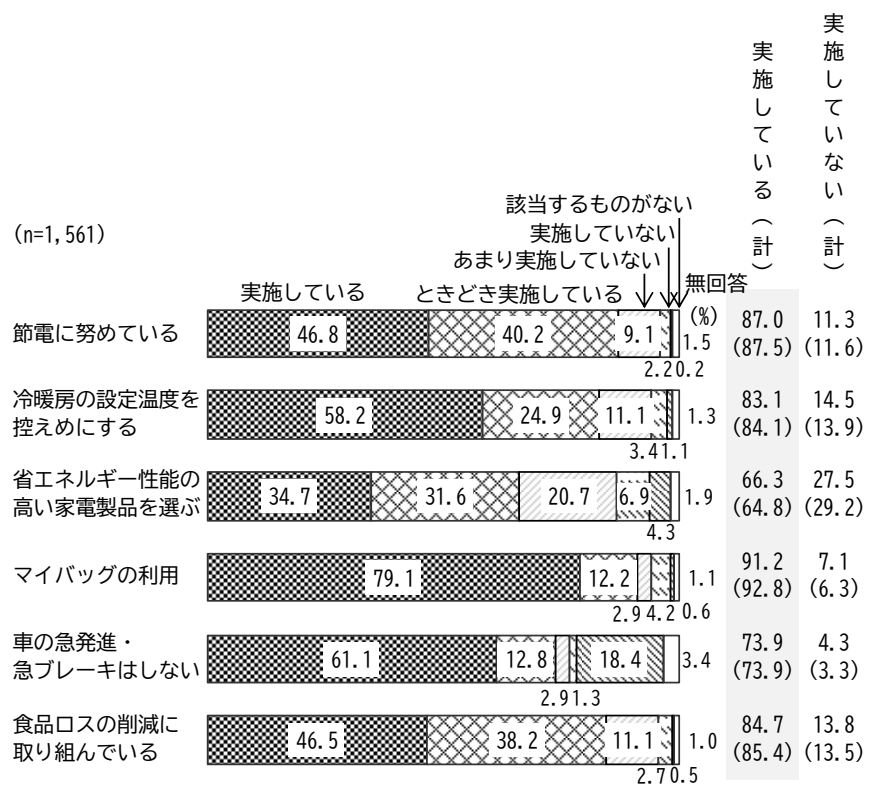


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(10) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

普段の生活で行っている環境保全の取組に関する6つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している(計)』が最も高いのは、「マイバッグの利用」(91.2%)で9割を超え、以下、「節電に努めている」(87.0%)が約9割、「食品ロスの削減に取り組んでいる」(84.7%)が8割台半ばで続く。

一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない(計)』が最も高いのは、「省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(27.5%)で約3割となっており、以下、「冷暖房の設定温度を控えめにする」(14.5%)と「食品ロスの削減に取り組んでいる」(13.8%)が1割台半ばで続く。

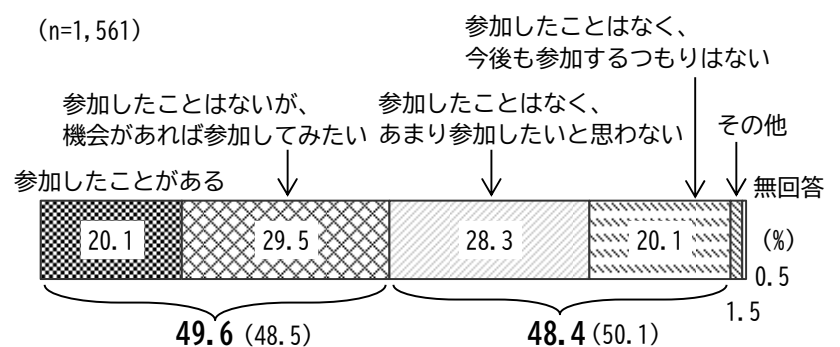


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(11) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

環境保全に関する講演やセミナー(オンライン参加含む)、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(20.1%)が2割となっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(29.5%)を合わせた『参加意向あり(計)』(49.6%)が約5割となっている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」(28.3%)と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」(20.1%)を合わせた『参加意向なし(計)』(48.4%)が約5割となっている。

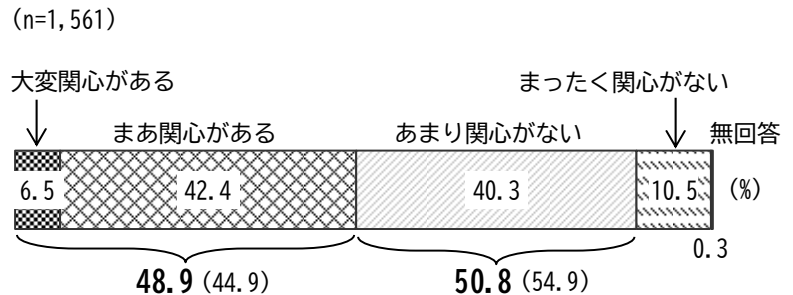


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(12) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体の活動や、ボランティア活動への関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(6.5%)と「まあ関心がある」(42.4%)を合わせた『関心がある(計)』(48.9%)が約5割となっている。

一方、「あまり関心がない」(40.3%)と「まったく関心がない」(10.5%)を合わせた『関心がない(計)』(50.8%)が5割となっている。

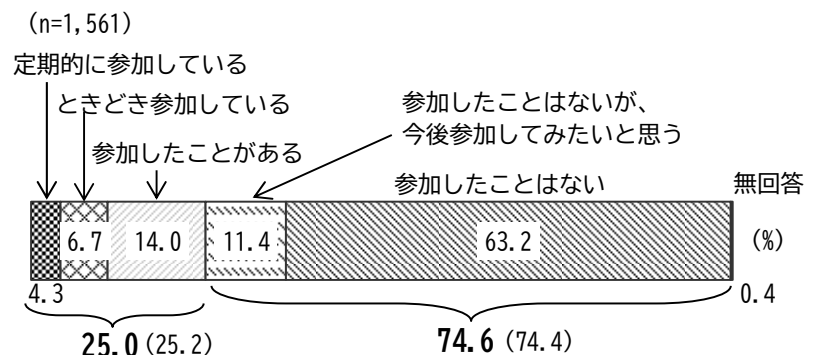


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(13) 市民活動団体の活動への参加経験

市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(4.3%)、「ときどき参加している」(6.7%)、「参加したことがある」(14.0%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(25.0%)が2割台半ばとなっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(11.4%)と「参加したことはない」(63.2%)を合わせた『参加したことはない(計)』(74.6%)が7割台半ばとなっている。

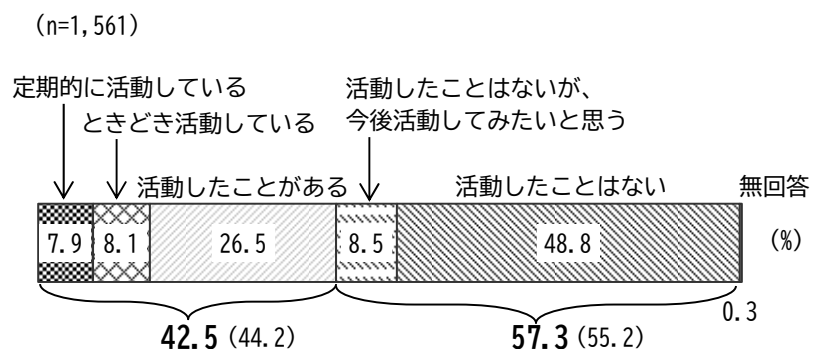


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(14) ボランティア活動経験

ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に参加している」(7.9%)、「ときどき活動している」(8.1%)、「活動したことがある」(26.5%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(42.5%)が4割を超えている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(8.5%)と「活動したことはない」(48.8%)を合わせた『活動したことはない(計)』(57.3%)が約6割となっている。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(15)この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

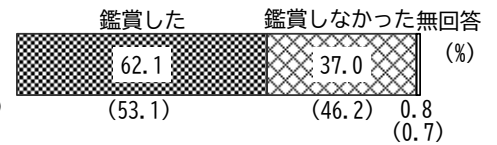
この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験を聞いたところ、鑑賞については「オンラインやテレビでの鑑賞」(66.7%)が6割台半ば、「直接の鑑賞」(62.1%)が6割を超えている。

活動については「直接の文化芸術活動」(25.7%)が2割台半ば、「オンラインでの文化芸術活動」(9.6%)が約1割となっている。

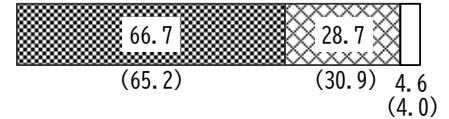
(n=1,561)

直接の鑑賞

(施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、読書、映画館での鑑賞など)

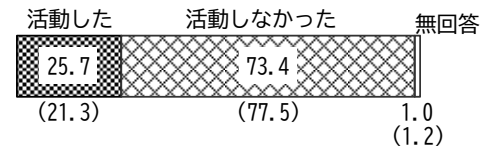


オンラインやテレビでの鑑賞



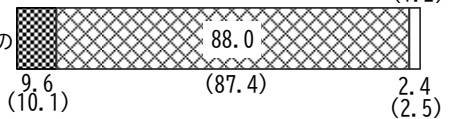
直接の文化芸術活動

(創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など)



オンラインでの文化芸術活動

(動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など)



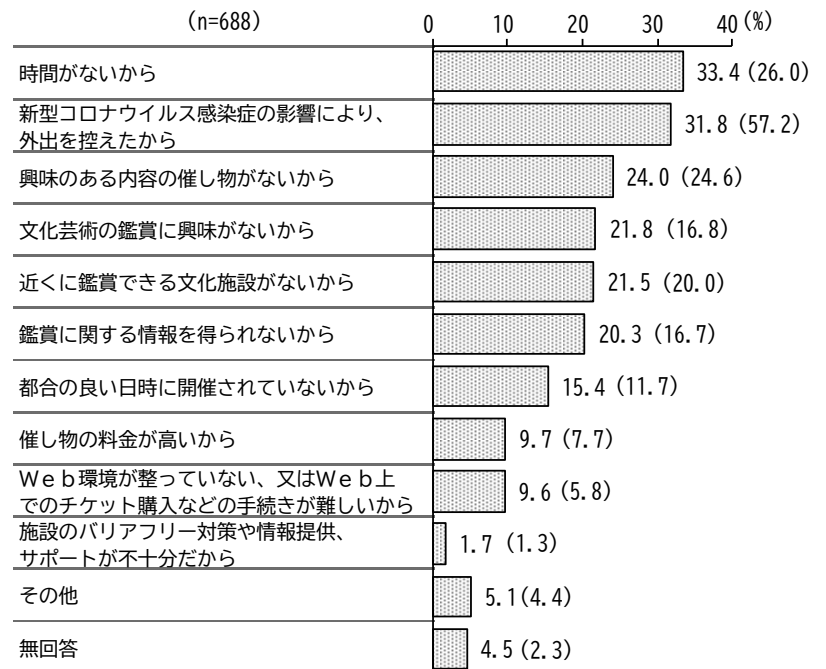
注) 下段の () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(15-1)文化芸術を鑑賞しなかった理由

(複数回答:いくつでも)

この1年間の文化芸術の鑑賞について、直接またはオンラインやテレビで鑑賞しなかったと回答した688人を対象に、鑑賞しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」(33.4%)が3割を超えて最も高く、以下、「新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を控えたから」(31.8%)、「興味のある内容の催し物がないから」(24.0%)、「文化芸術の鑑賞に興味がないから」(21.8%)が続く。

(n=688)

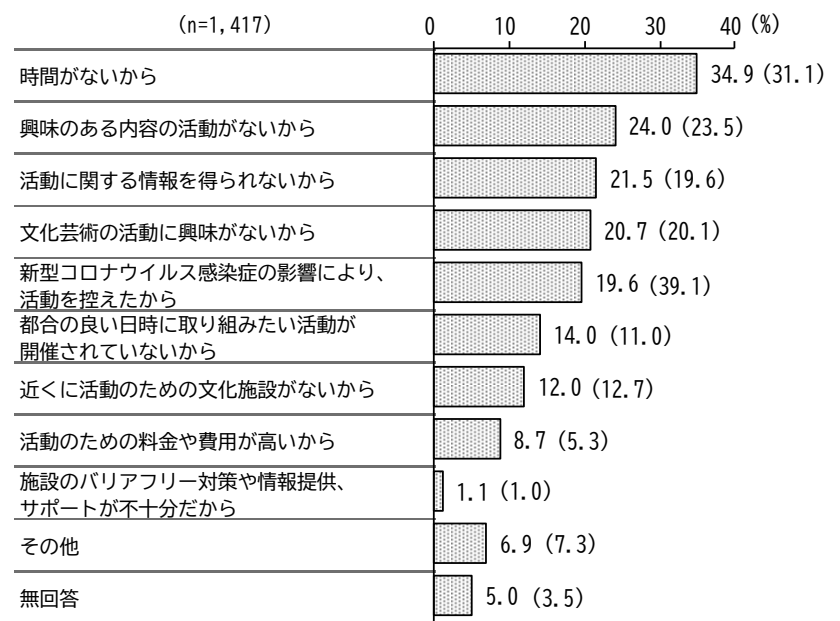


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(15-2)文化芸術活動をしなかった理由

(複数回答:いくつでも)

この1年間の文化芸術活動について、直接またはオンラインで活動しなかったと回答した1,417人を対象に、活動しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」(34.9%)が3割台半ばで最も高く、以下、「興味のある内容の活動がないから」(24.0%)、「活動に関する情報を得られないから」(21.5%)、「文化芸術の活動に興味がないから」(20.7%)が続く。



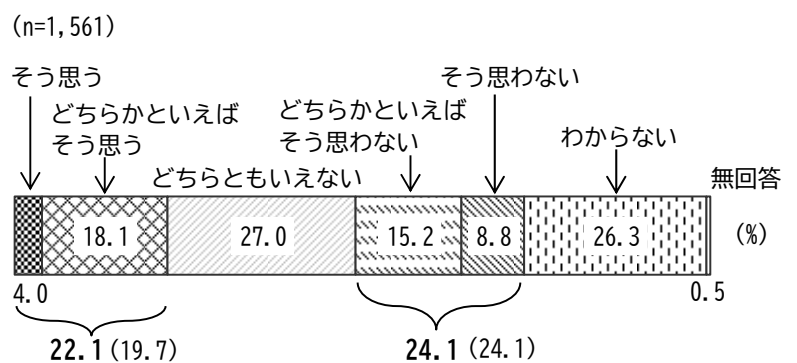
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(16)文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境の整備状況

千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.0%)と「どちらかといえばそう思う」(18.1%)を合わせた『そう思う(計)』(22.1%)が2割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.2%)と「そう思わない」(8.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(24.1%)が2割台半ばとなっている。

また、「どちらともいえない」(27.0%)が約3割となっている。



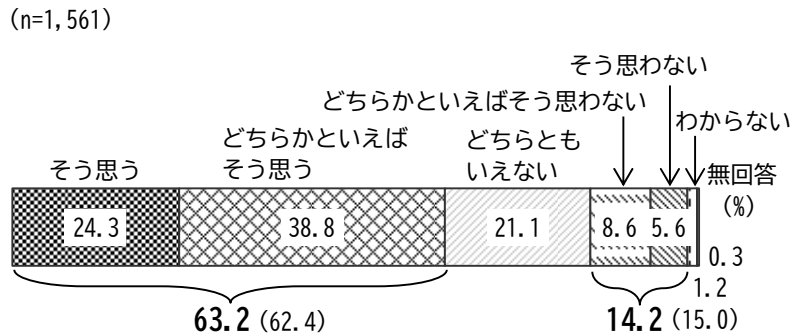
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1)健康づくりへの取組状況

積極的に健康づくりに取り組んでいるか聞いたところ、「そう思う」(24.3%)と「どちらかといえばそう思う」(38.8%)を合わせた『そう思う(計)』(63.2%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(8.6%)と「そう思わない」(5.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(14.2%)が1割台半ばとなっている。

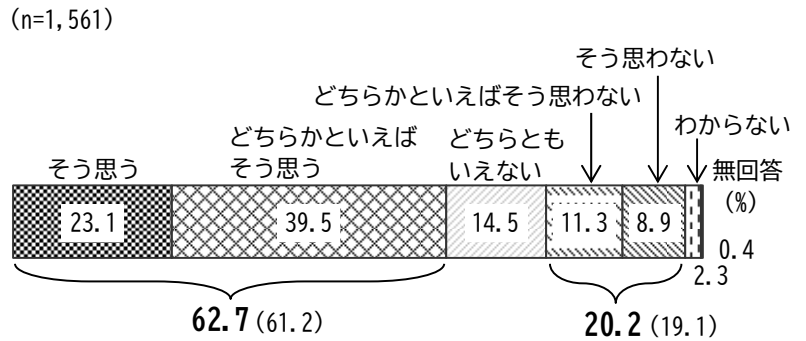


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2)安心して受診できる医療体制

住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(23.1%)と「どちらかといえばそう思う」(39.5%)を合わせた『そう思う(計)』(62.7%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(11.3%)と「そう思わない」(8.9%)を合わせた『そう思わない(計)』(20.2%)が2割となっている。



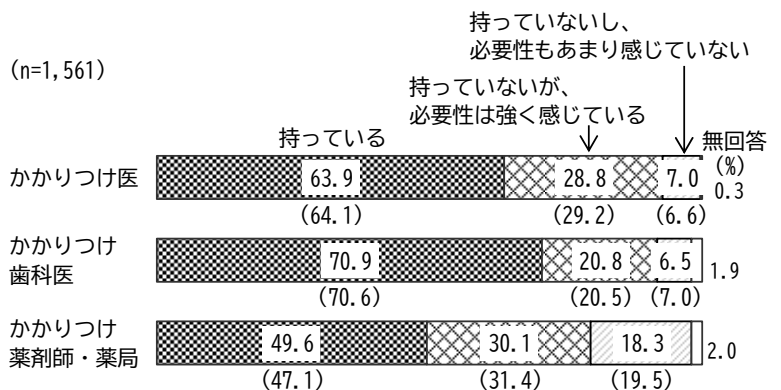
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(3)かかりつけ医の有無

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉(70.9%)が7割、〈かかりつけ医〉(63.9%)が6割台半ば、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(49.6%)が約5割となっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(30.1%)が3割、〈かかりつけ医〉(28.8%)が約3割、〈かかりつけ歯科医〉(20.8%)が2割となっている。

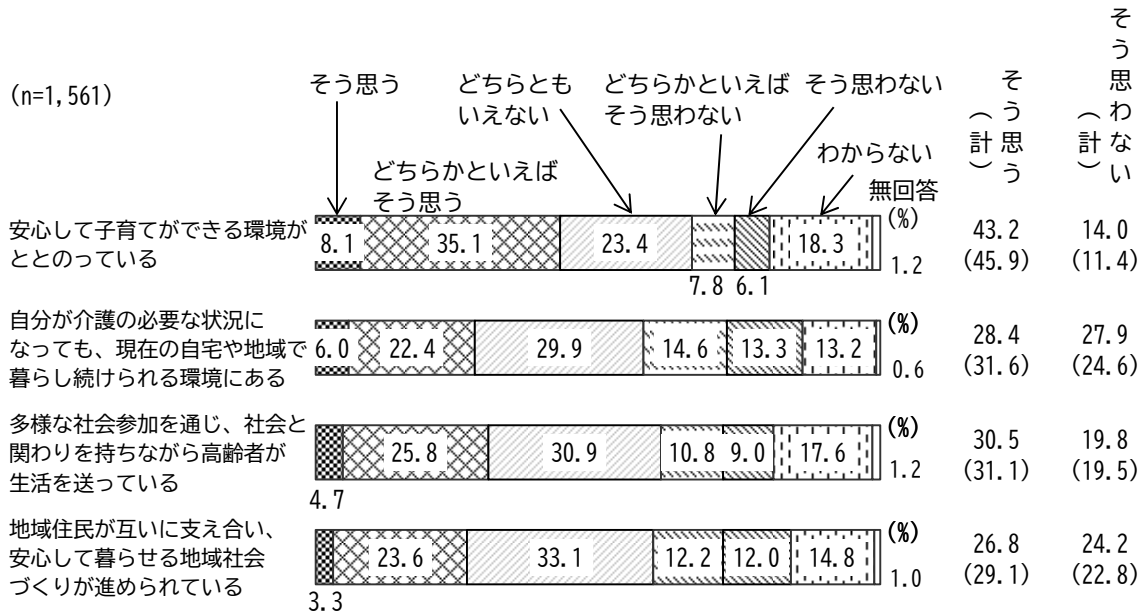
「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(18.3%)が約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 地域の福祉の状況について



注) 下段の () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

地域の福祉の状況に関する4項目について、お住まいの地域がどのような状況か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う (計)』は、「安心して子育てができる環境がととのっている」(43.2%)で4割を超えており、「多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(30.5%)が3割、「自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(28.4%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない (計)』は、「自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(27.9%)で約3割となっており、「地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」(24.2%)が2割台半ば、「多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(19.8%)が約2割となっている。

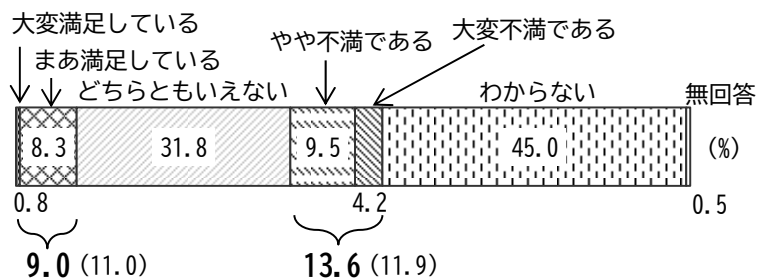
(2)お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

県が進めている「お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策」について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(0.8%)と「まあ満足している」(8.3%)を合わせた『満足している(計)』(9.0%)が約1割となっている。

一方、「やや不満である」(9.5%)と「大変不満である」(4.2%)を合わせた『不満である(計)』(13.6%)が1割台半ばとなっている。

また、「どちらともいえない」(31.8%)が3割を超えている。

(n=1,561)



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

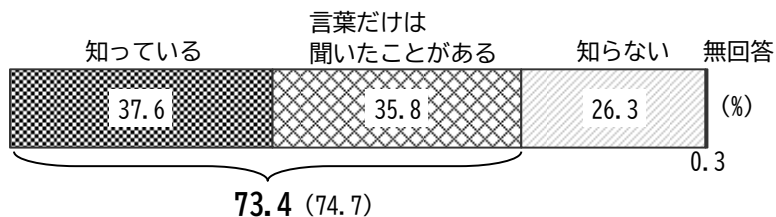
(3)「共生社会」の認知度

「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」

(37.6%)と「言葉だけは聞いたことがある」(35.8%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(73.4%)が7割を超えている。

一方、「知らない」(26.3%)が2割台半ばとなっている。

(n=1,561)



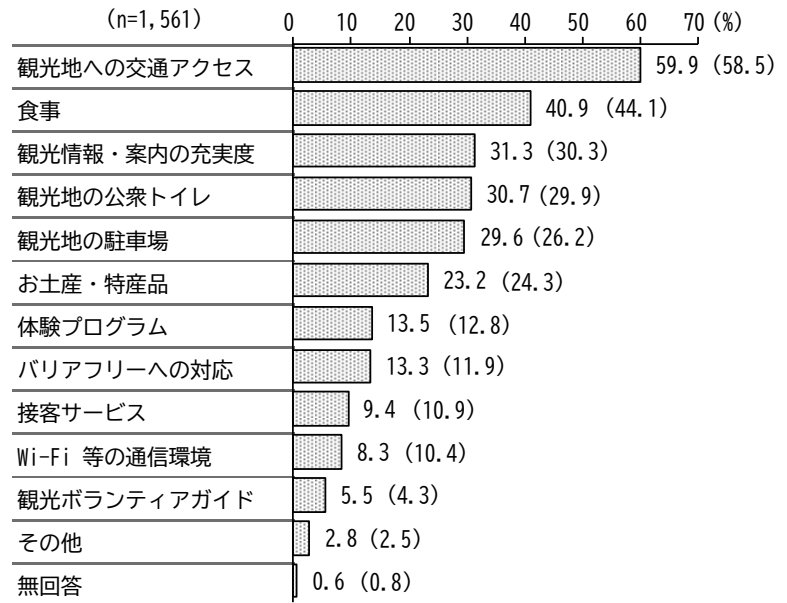
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

5 観光について

(1) 県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと

(複数回答:3つまで)

千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいか聞いたところ、「観光地への交通アクセス」(59.9%)が約6割で最も高く、以下、「食事」(40.9%)、「観光情報・案内の充実度」(31.3%)、「観光地の公衆トイレ」(30.7%)が続く。

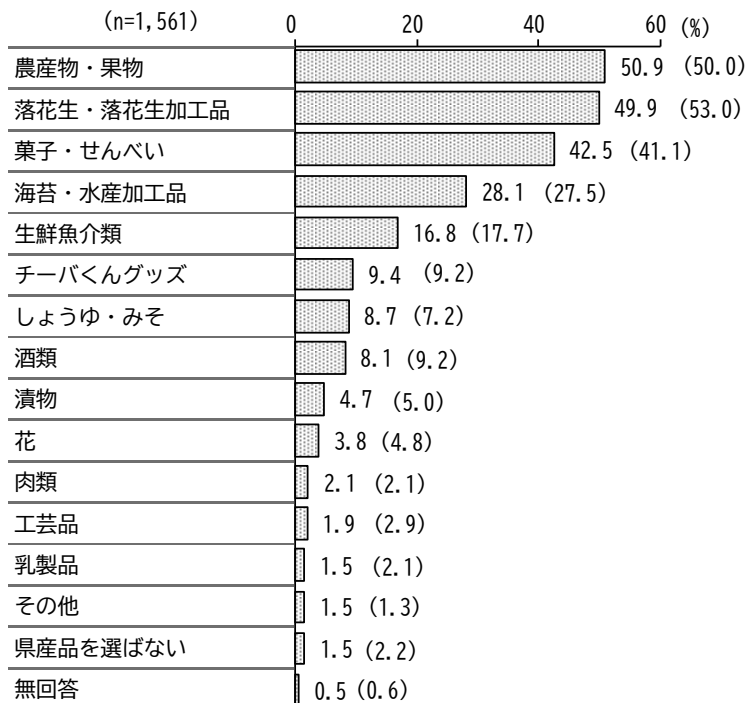


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2) お土産や贈答品として選ぶ県産品

(複数回答:3つまで)

県産品をお土産や贈答品とする場合、何を选ぶか3つまで選んでもらったところ、「農産物・果物」(50.9%)が5割で最も高く、以下、「落花生・落花生加工品」(49.9%)、「菓子・せんべい」(42.5%)、「海苔・水産加工品」(28.1%)が続く。



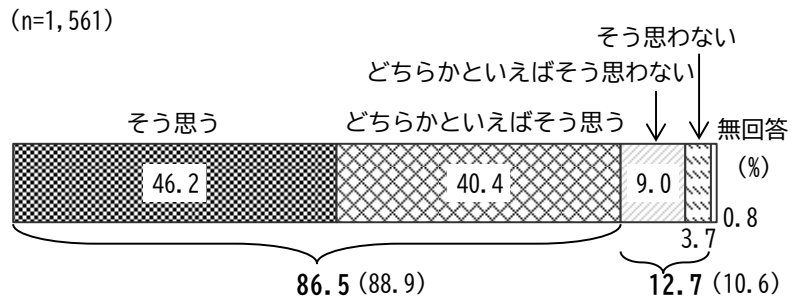
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

6 県の農林水産物について

(1) 千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(46.2%)と「どちらかといえばそう思う」(40.4%)を合わせた『そう思う(計)』(86.5%)が8割台半ばとなっている。

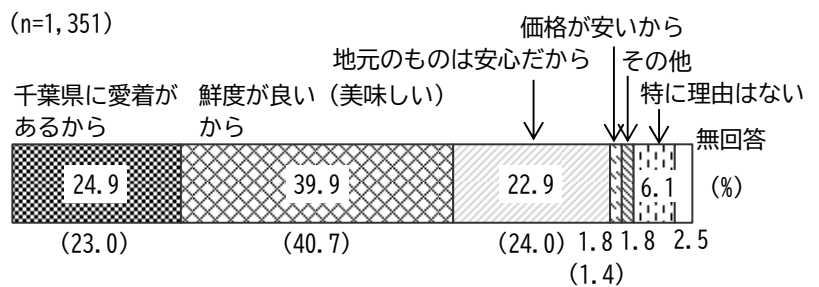
一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.0%)と「そう思わない」(3.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(12.7%)は1割を超えている。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,351人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(39.9%)が約4割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」(24.9%)、「地元のもの安心だから」(22.9%)が続く。

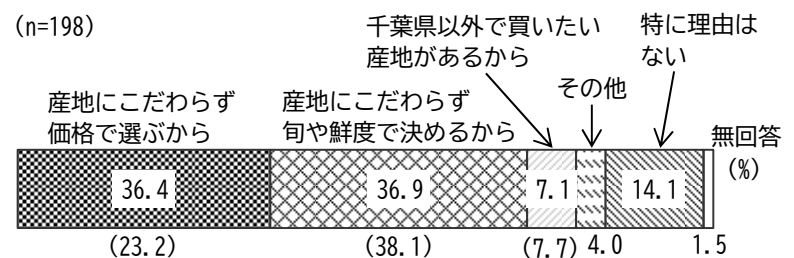


注) 下段の () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した198人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(36.9%)が3割台半ばで最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(36.4%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(7.1%)が続く。

一方、「特に理由はない」(14.1%)が1割台半ばとなっている。

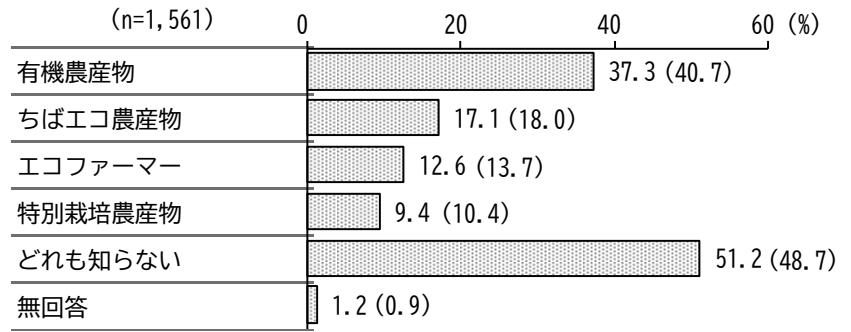


注) 下段の () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2)環境にやさしい農産物や制度の認知度

(複数回答:いくつでも)

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者・農産物や認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(37.3%)が約4割で最も高く、以下、「ちばエコ農産物」(17.1%)、「エコファーマー」(12.6%)、「特別栽培農産物」(9.4%)が続く。

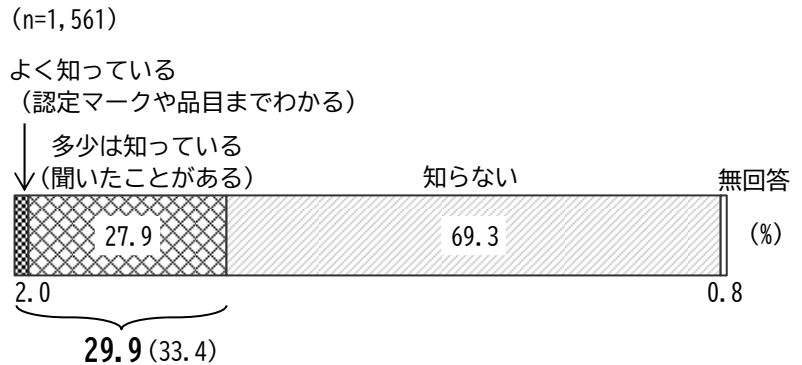


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(3)「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている(認定マークや品目までわかる)」(2.0%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(27.9%)を合わせた『知っている(計)』(29.9%)が約3割となっている。

一方、「知らない」(69.3%)が約7割となっている。



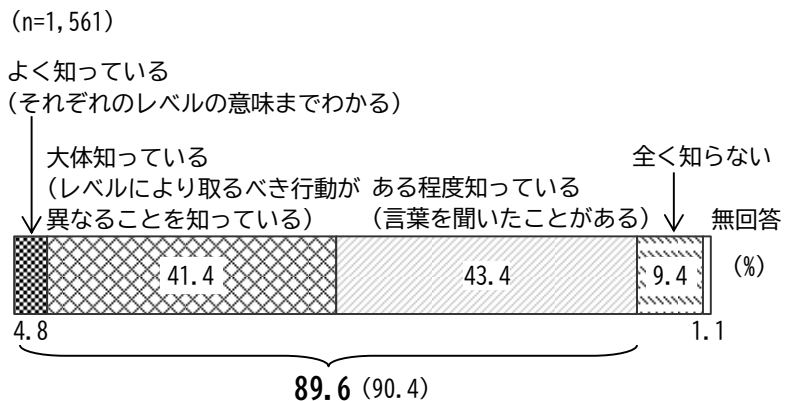
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

7 防災に関する取組について

(1)防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際に取るべき行動について知っているか聞いたところ、「よく知っている(それぞれのレベルの意味までわかる)」(4.8%)と「大体知っている(レベルにより取るべき行動が異なることを知っている)」(41.4%)、「ある程度知っている(言葉を聞いたことがある)」(43.4%)の3つを合わせた『知っている(計)』(89.6%)が約9割となっている。

一方、「全く知らない」(9.4%)が約1割となっている。

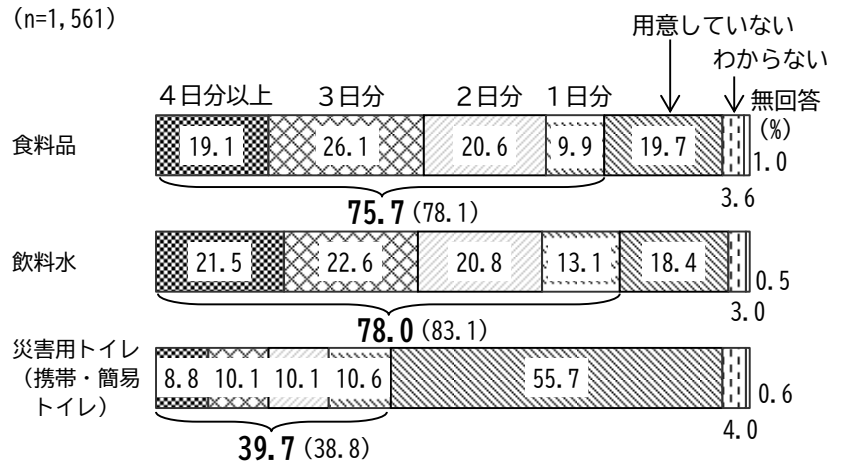


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2)飲料水や食料、災害用トイレ(簡易・携帯)の備蓄状況

災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「4日分以上」、「3日分」、「2日分」、「1日分」の4つを合わせた『用意している(計)』が最も高いのは、「飲料水」(78.0%)で約8割、以下、「食料品」(75.7%)が7割台半ば、「災害用トイレ(携帯・簡易トイレ)」(39.7%)が約4割となっている。

一方、「用意していない」が最も高いのは、「災害用トイレ(携帯・簡易トイレ)」(55.7%)で5割台半ばとなっており、以下、「食料品」(19.7%)と「飲料水」(18.4%)が約2割となっている。



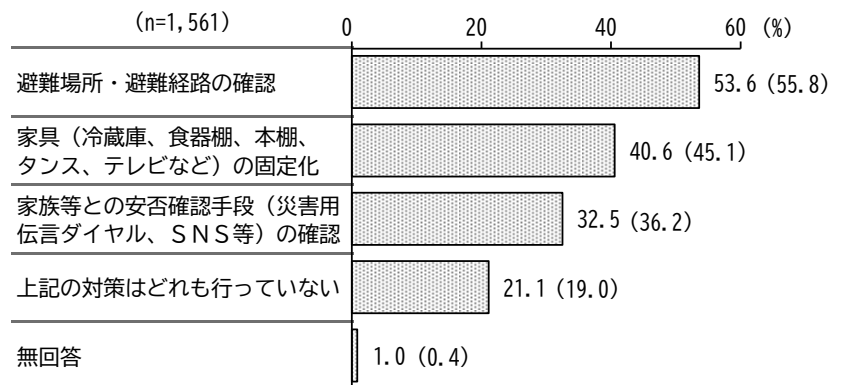
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(3)地震や台風などの災害への対策

(複数回答:いくつでも)

地震や台風などの災害に備えて、どのような対策を行っているか聞いたところ、「避難場所・避難経路の確認」(53.6%)が5割台半ばで最も高く、以下、「家具(冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど)の固定化」(40.6%)、「家族等との安否確認手段(災害用伝言ダイヤル、SNS等)の確認」(32.5%)が続く。

一方、「上記の対策はどれも行っていない」(21.1%)が2割を超えている。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

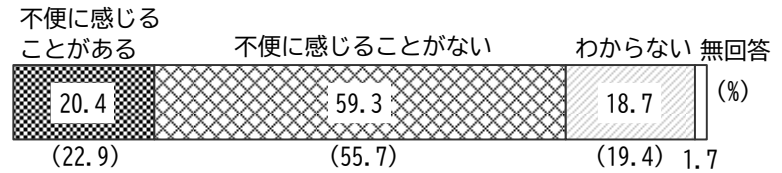
8 公金のキャッシュレス化の推進について

(1) 公金の納付に当たり不便と感じることの有無

税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感じることがあるかを聞いたところ、「不便を感じることもある」(20.4%)が2割となっている。

一方、「不便を感じることはない」(59.3%)が約6割となっている。

(n=1,561)

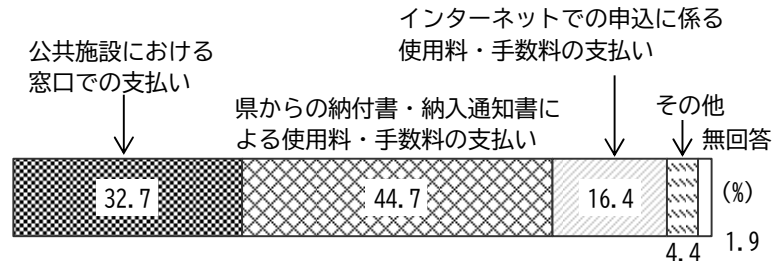


注) 下段の () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1-1) キャッシュレス決済を導入すべきだと思う場面

公金の納付に当たり「不便を感じることもある」と回答した318人を対象に、県がキャッシュレス決済を導入するとした場合、特に、どの場面に導入すべきだと思うかを聞いたところ、「県からの納付書・納入通知書による使用料・手数料の支払い」(44.7%)が4割台半ばと最も高く、以下、「公共施設における窓口での支払い」(32.7%)、「インターネットでの申込に係る使用料・手数料の支払い」(16.4%)と続く。

(n=318)



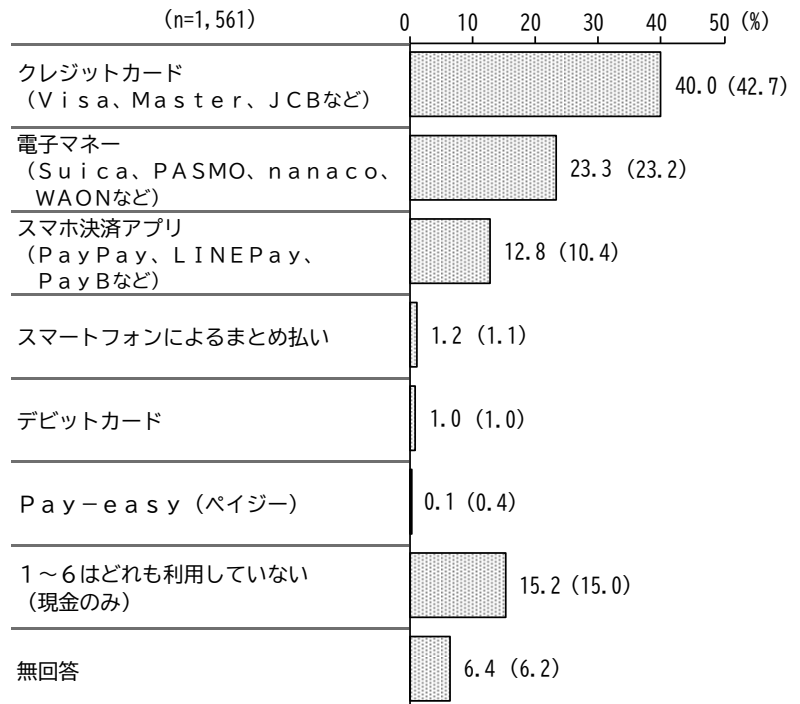
(2) 普段の生活で主に利用しているキャッシュレス決済

普段の生活で主に利用しているキャッシュレス決済を聞いたところ、「クレジットカード (Visa、Master、JCBなど)」(40.0%)が4割で最も高く、以下、「電子マネー (Suica、PASMO、nanaco、WAONなど)」(23.3%)、「スマホ決済アプリ (PayPay、LINE Pay、PayBなど)」(12.8%)が続く。

一方、「1~6はどれも利用していない (現金のみ)」(15.2%)が1割台半ばとなっている。

#

注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。



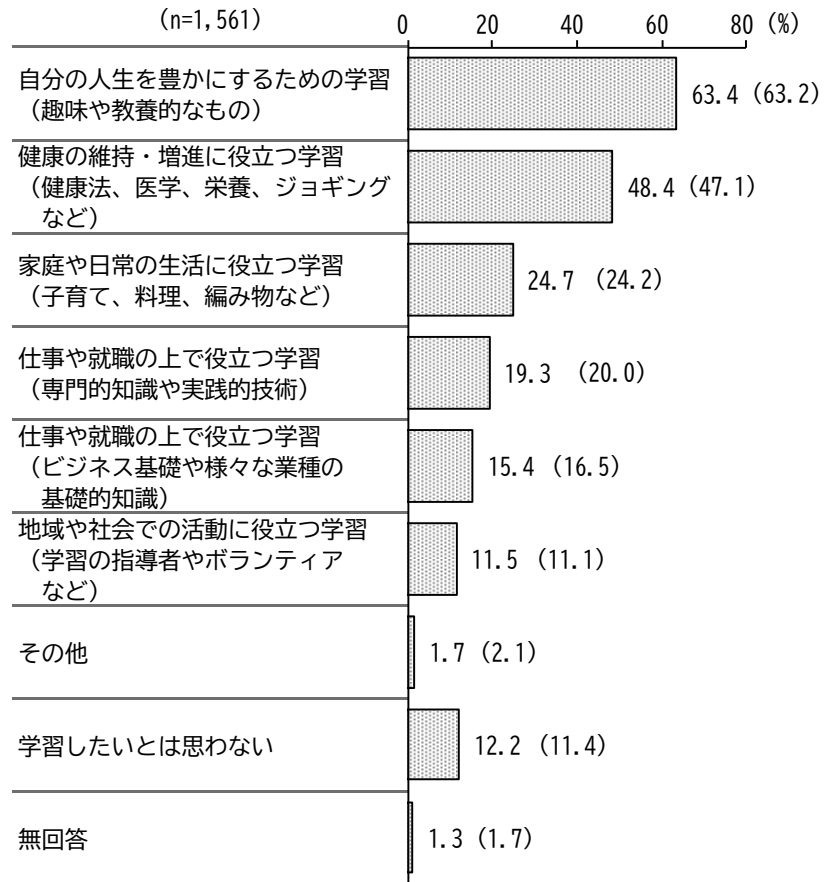
(1) 今後学習したいと思うこと

(複数回答:いくつでも)

今後、学習したいと思うことを聞いたところ、「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」

(63.4%) が6割を超えて最も高く、以下、「健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど）」(48.4%)、「家庭や日常生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など）」(24.7%)、「仕事や就職の上で役立つ学習（専門的知識や実践的技術）」(19.3%)が続く。

一方、「学習したいとは思わない」(12.2%) が1割を超えている。



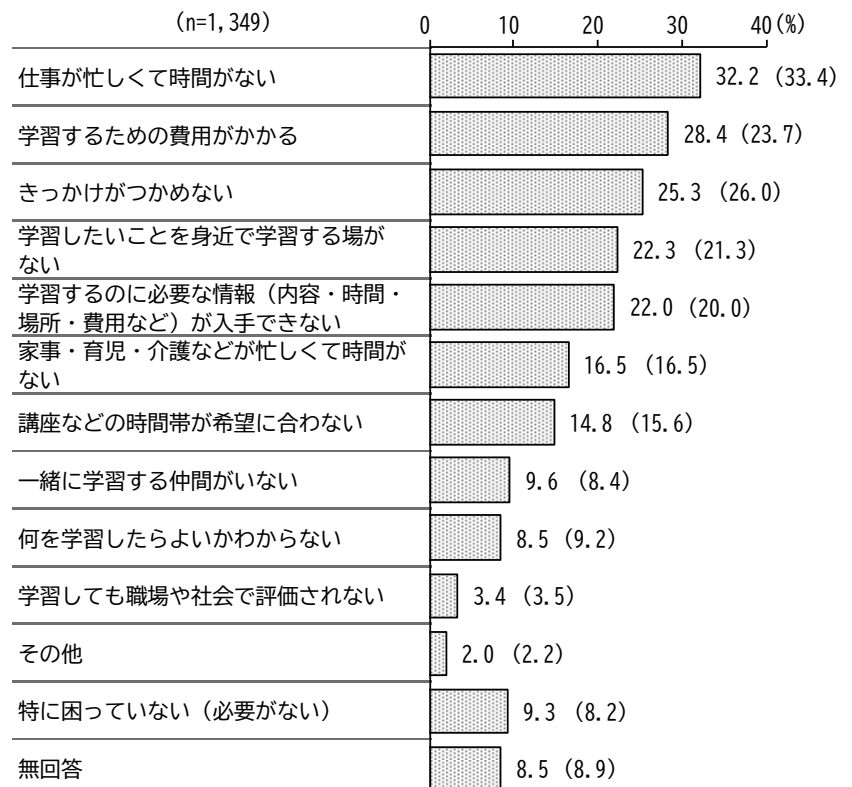
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1-1) 学習する上で困っていること

(複数回答:いくつでも)

「学習したいとは思わない」以外を回答した1,349人に、学習する上で困っていることを聞いたところ、「仕事が忙しくて時間がない」(32.2%) が3割を超えて最も高く、以下、「学習するための費用がかかる」(28.4%)、「きっかけがつかめない」(25.3%)、「学習したいことを身近で学習する場がない」(22.3%)が続く。

一方、「特に困っていない(必要がない)」(9.3%) が約1割となっている。



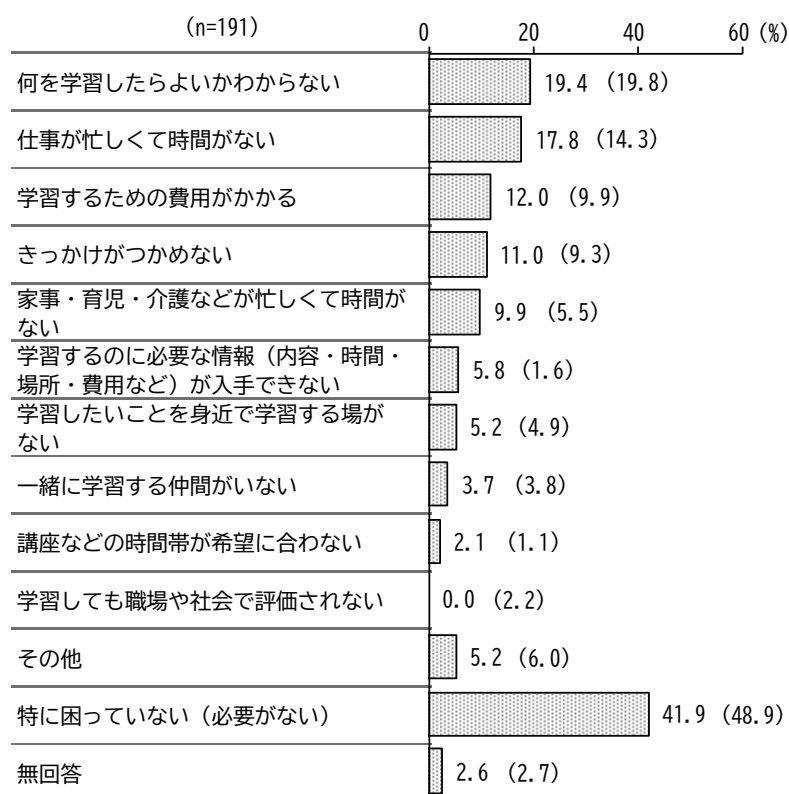
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1-2) 学習したいと思わない理由

(複数回答:いくつでも)

「学習したいと思わない」と回答した191人に、学習したいと思わない理由を聞いたところ、「何を学習したらよいかわからない」(19.4%)が約2割で最も高く、以下、「仕事が忙しくて時間がない」(17.8%)、「学習するための費用がかかる」(12.0%)、「きっかけがつかめない」(11.0%)が続く。

一方、「特に困っていない(必要がない)」(41.9%)が4割を超えている。



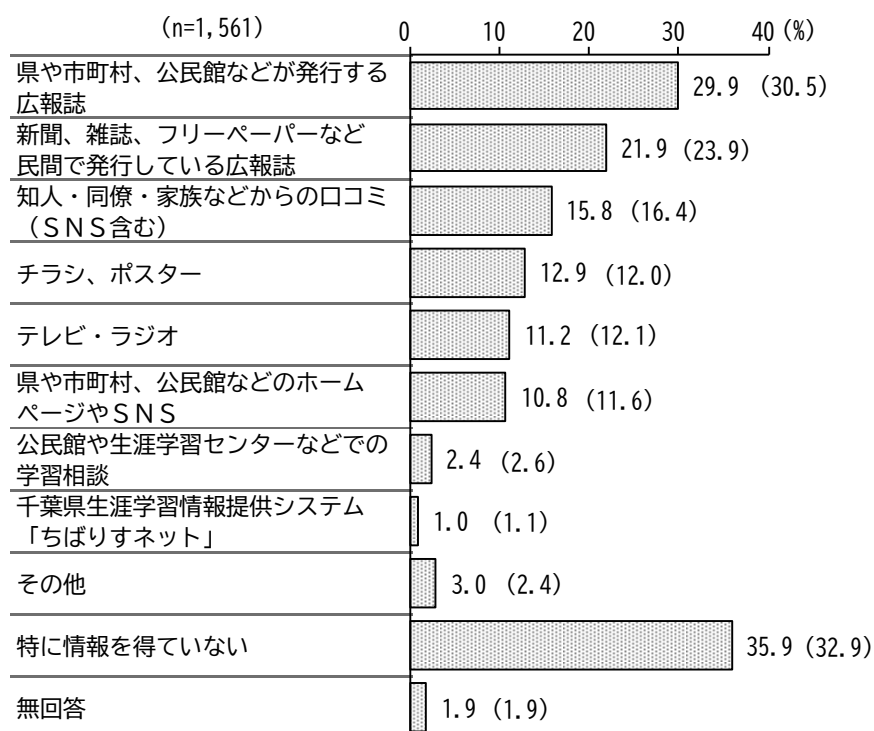
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2) 生涯学習の情報を得る手段

(複数回答:いくつでも)

生涯学習の情報を得る手段について聞いたところ、「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」(29.9%)が約3割で最も高く、以下、「新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌」(21.9%)、「知人・同僚・家族などからの口コミ(SNS含む)」(15.8%)、「チラシ、ポスター」(12.9%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(35.9%)が3割台半ばとなっている。



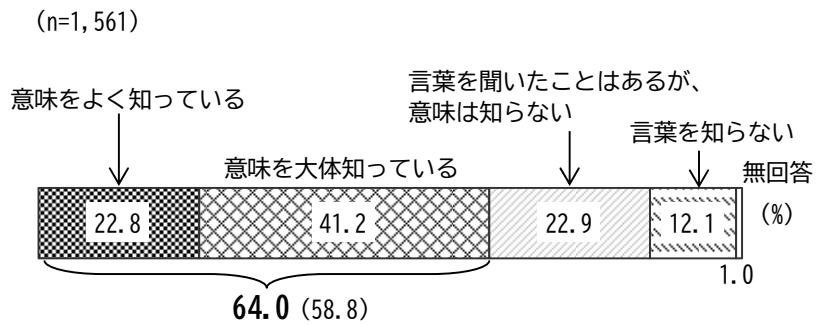
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

10 SDGs等について

(1)SDGsの言葉の認知度

SDGsの言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」(22.8%)と「意味を大体知っている」(41.2%)を合わせた『意味を知っている(計)』(64.0%)が6割台半ばとなっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」(22.9%)が2割を超え、「言葉を知らない」(12.1%)が1割を超えている。

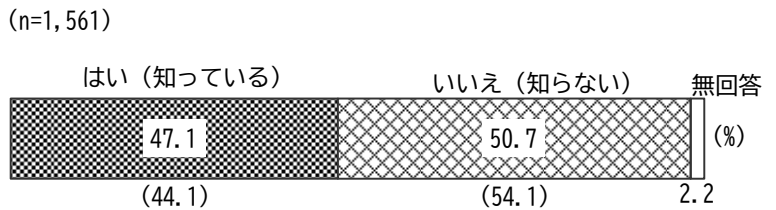


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(2)「ダイバーシティ」概念の認知度

「ダイバーシティ」という概念を知っていたか聞いたところ、『はい(知っている)』(47.1%)が約5割となっている。

一方、『いいえ(知らない)』(50.7%)が5割となっている。

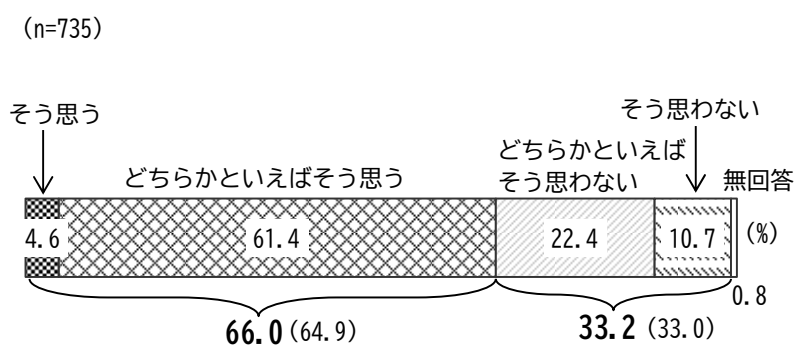


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(3)千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

ダイバーシティの概念を知っている735人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」(4.6%)と「どちらかといえばそう思う」(61.4%)を合わせた『そう思う(計)』(66.0%)が6割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(22.4%)と「そう思わない」(10.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(33.2%)が3割を超えている。



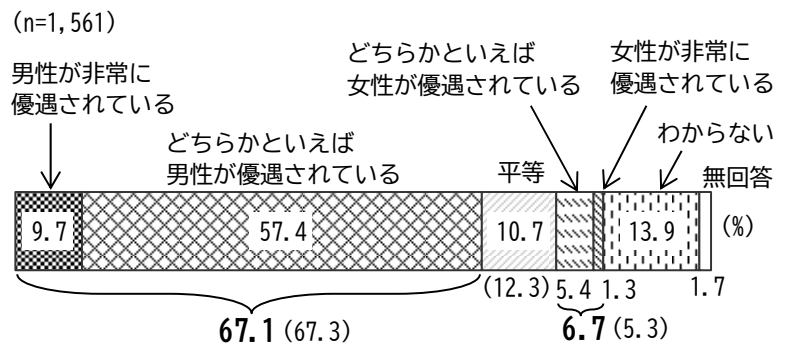
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(4)社会全体での男女の地位の平等感

社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(9.7%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(57.4%)を合わせた『男性が優遇されている(計)』(67.1%)が約7割となっている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(5.4%)と「女性が非常に優遇されている」(1.3%)を合わせた『女性が優遇されている(計)』(6.7%)は1割未満となっている。

「平等」(10.7%)は1割となっている。

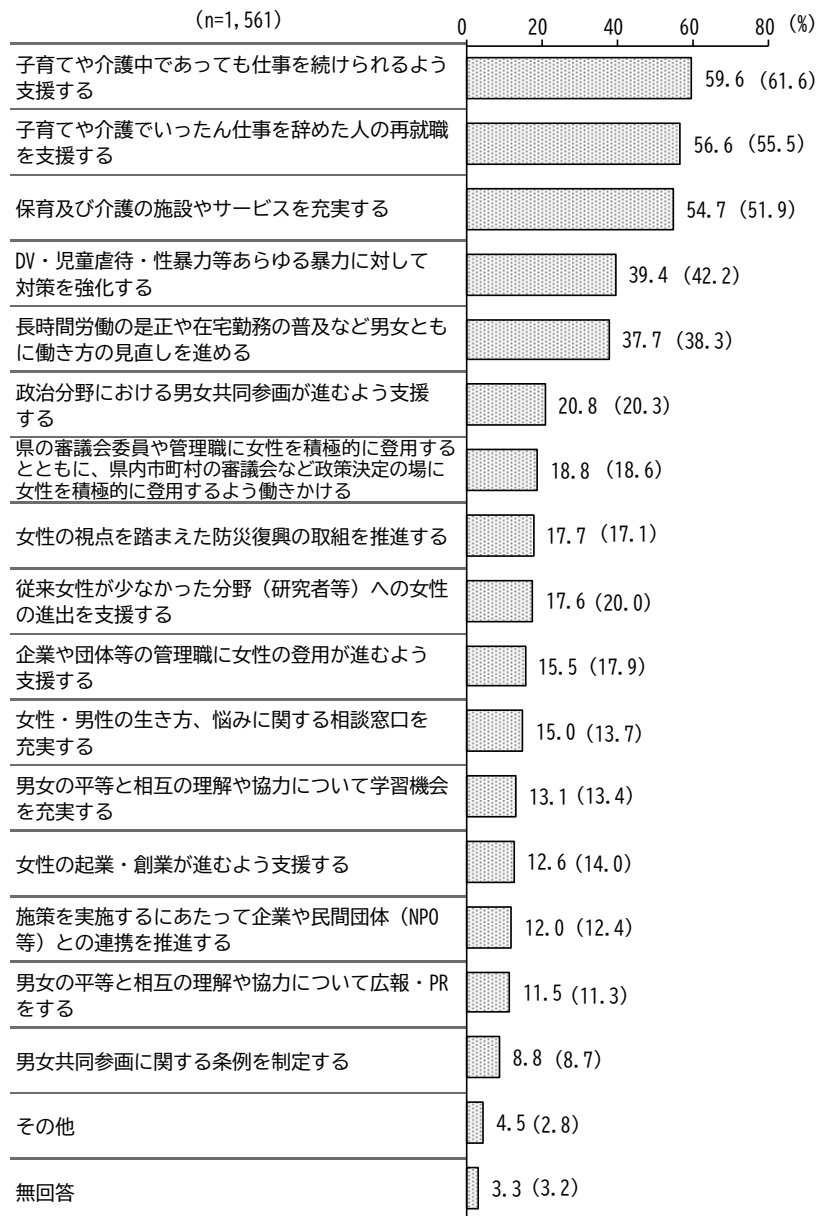


注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(5)男女共同参画社会を実現するための取組

(複数回答:いくつでも)

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(59.6%)が約6割で最も高く、以下、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(59.6%)、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(54.7%)、「DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する」(39.4%)が続く。



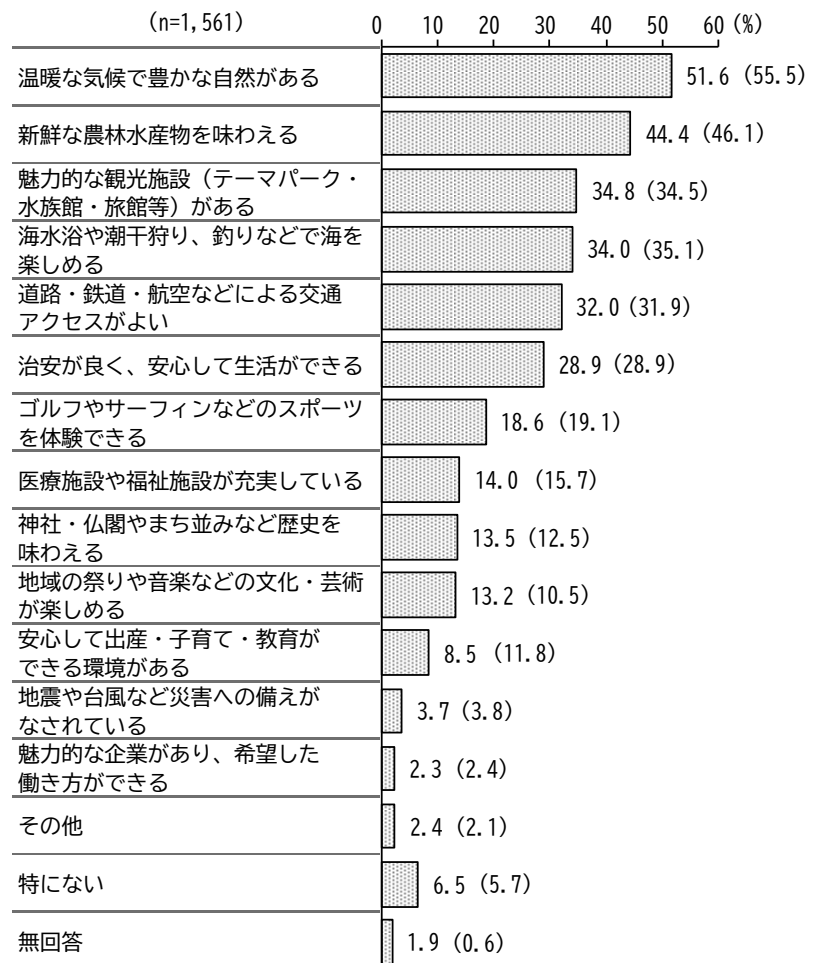
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

11 県の魅力について

(1) 千葉県の魅力

(複数回答:いくつでも)

千葉県の魅力を聞いたところ、「温暖な気候で豊かな自然がある」(51.6%)が5割を超えて最も高く、以下、「新鮮な農林水産物を味わえる」(44.4%)、「魅力的な観光施設(テーマパーク・水族館・旅館等)がある」(34.8%)、「海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しむ」(34.0%)が続く。



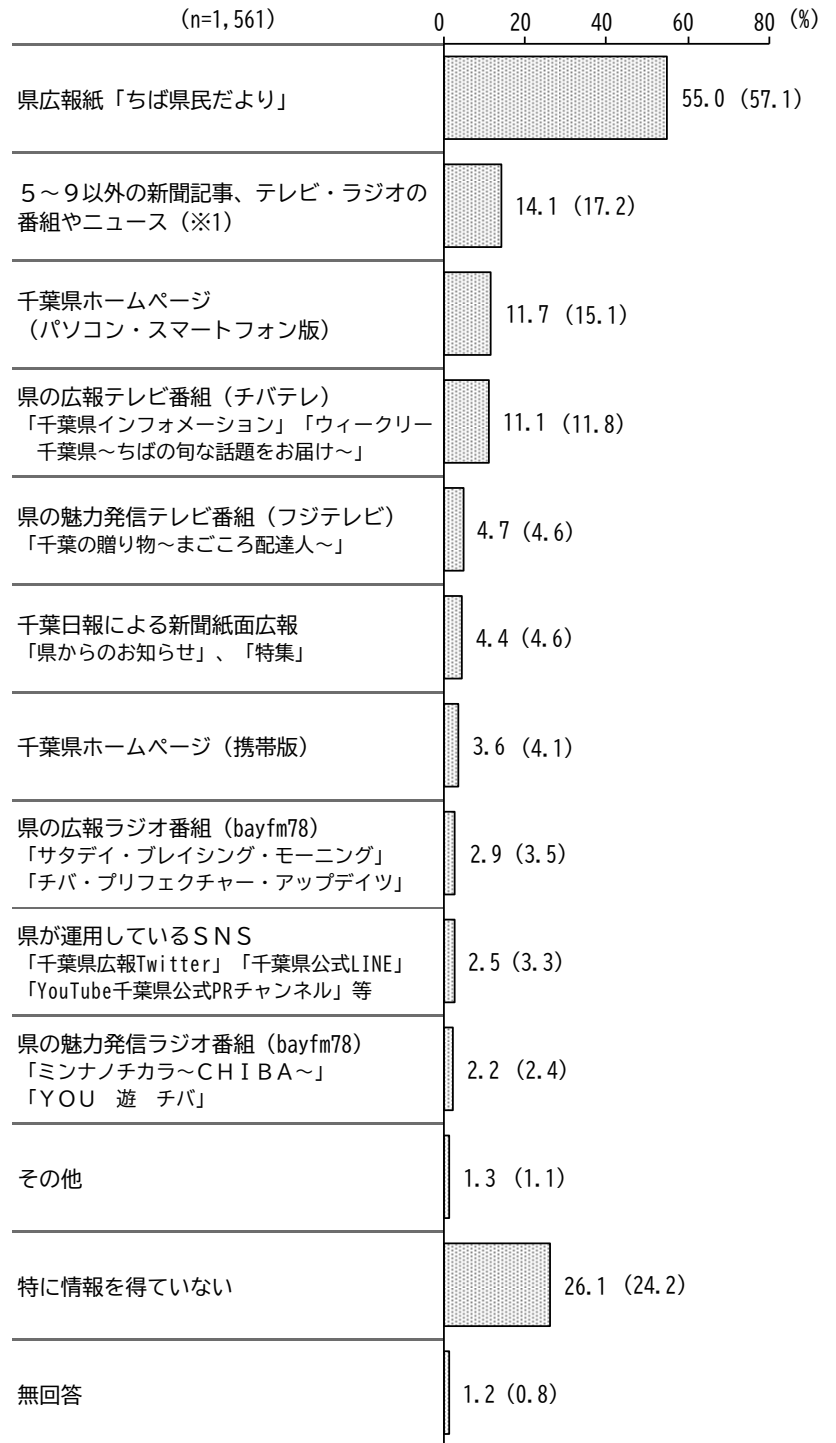
注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

(1) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答:いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(55.0%)が5割台半ばで最も高く、以下、「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(14.1%)、「千葉県ホームページ(パソコン・スマートフォン版)」(11.7%)、「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」(11.1%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(26.1%)は2割台半ばとなっている。



注) () 書きは、令和4年度の調査結果を示している。

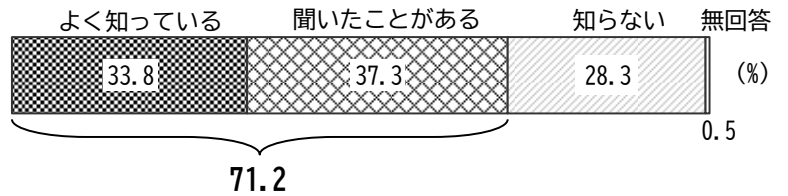
(※1) 「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、5～9とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」「県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデイ・ブレッシング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデイツ』」「県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物～まごころ配達人～』」「県の魅力発信ラジオ番組(bayfm78)『ミンナノチカラ～CHIBA～』『YOU 遊 チバ』」を指す。

(1)「ちばアクアラインマラソン」の認知度

「ちばアクアラインマラソン」を知っているか聞いたところ、「よく知っている」(33.8%)と「聞いたことがある」(37.3%)を合わせた『知っている(計)』(71.2%)が7割を超えている。

一方、「知らない」(28.3%)が約3割となっている。

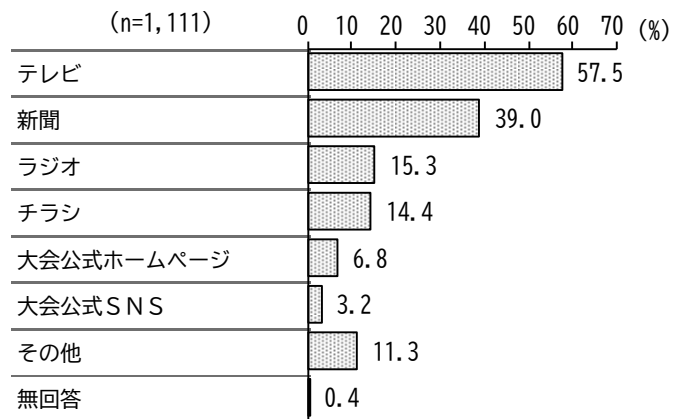
(n=1,561)



(2)「ちばアクアラインマラソン」の認知媒体

(複数回答:いくつでも)

「ちばアクアラインマラソン」を知っている1,111人を対象に、どこで知ったか聞いたところ、「テレビ」(57.5%)が約6割で最も高く、以下、「新聞」(39.0%)、「ラジオ」(15.3%)、「チラシ」(14.4%)が続く。



自由回答(抜粋)

県や世論調査への意見を自由に記述していただいたところ、232人から延べ309件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

◆県政全般に関する要望

- 県の行政施策、方針等がほとんど身近に感じられません。他県に誇れるような政策、施策の企画、実施を望みます。(男性、75歳以上、佐倉市)
- 千葉は都会と田舎の差が激しいので、それも一つの魅力だとは思いますが、生活するのに不便さはなくなって欲しい。(男性、50代、いすみ市)

◆道路を整備する

- 歩行者、自転車、自動車がそれぞれ安心して通行出来るように道路の幅を早急にお願いします。(男性、50代、千葉市)

◆次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 子育て中はお金も時間もかかります。少しでも負担が軽減し、次世代を担う子どもたちをのびのび育てられる千葉県となることを切望します。(女性、30代、八千代市)

◆公共交通網(バス・鉄道)を整備する

- 都会と違い交通網が悪くタクシーを利用している。高齢になると交通費がかかり外出もなかなか出来ない。デマンドタクシーがもっと楽に使えるといい。(女性、75歳以上、千葉市)

◆県政の情報発信について

- 関東圏で、他都県を先導するくらい、知事を筆頭に、マスメディア、SNS等を通して更にパワーアップした発信力をみせていただきたい。(男性、30代、船橋市)

◆学校教育を充実する

- 公立高校の設備が古すぎます。来年受験する子供と学校見学へ何校か行き驚きました。もっと勉強しやすい環境を整えないと公立高校離れすると思います。(女性、50代、印西市)

◆災害から県民を守る

- 気候変動、地球温暖化により、千葉県でも大雨災害に遭うことが多くなりました。河川の氾濫防止と、道路等交通網の水害対策が不十分と感じます。(女性、40代、木更津市)

◆高齢者の福祉を充実する

- コロナや猛暑等の影響もあり、独居老人は、全くの孤独です。“このままでは、認知症になるのでは”、とこわいです。クールシェアのようないつでも、誰でも、きがねなく集まれる場所を増やし、会話が出来るようになれば嬉しいです。(女性、70～74歳、千葉市)

「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、65人から67件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「設問への意見」に記入された世論調査への意見も含む。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

◆世論調査について

《世論調査自体への意見》

- 今回の調査がどのような施策に生かされたのか、生かされるのか、結果の公表、意見等を具体的に示して欲しい。
(女性、50代、四街道市)
- 回答していて県について知らない事がたくさんあると思いました。県のあらゆる情報が載った情報誌等を同封して欲しい。
(女性、30代、八千代市)
- ふだん感じていることがこのようなかたちで調査・見直されていることはよいことだと思います。これからも生活しやすい千葉県をさらに築きあげていって欲しいです。
(男性、60～64歳、千葉市)
- 県政と市政を一まとめに考えているところがありましたが、今回のアンケートを通し、今後は違いを意識していこうと思いました。特に自分自身驚いたことは県の情報を積極的に入手していなかったことです。まずはLINE登録します。
(女性、50代、市川市)

《調査手法や謝礼への意見》

- チーバくんのボールペンありがとうございました。チーバくんかわいいのもっと積極的に活動してもらったら良いと思います。
(男性、65～69歳、鴨川市)
- 可愛いボールペンありがとうございました。環境のためにもビニール包装はプラスチックゴミになるので必要ないと思います。インターネット回答の場合、紙が無駄になるのが残念なので、何か別の方法があったら良いと思います。
(女性、20代、夷隅郡御宿町)
- アンケート、折るのが大変なので、質問と解答書を分けた方が良いかと思います。
(女性、50代、市川市)
- インターネットで回答できるようになっていることに驚いた。非常に便利なので、こういった取り組みは是非続けてください。
(男性、60～64歳、船橋市)
- ネット回答で3つまでしか選択ができない設問に関しては、4つ以上選んだ際に「選択できるのは3つまでです。」というエラー画面を表示すべきだと思った。
(女性、30代、成田市)

自由回答(抜粋)

今回のアンケート調査における「設問に関する意見」を自由に記述していただいたところ、224人から43件の回答が寄せられた。「県や世論調査への意見」に記述された意見のうち、「設問への意見」に該当するものもこちらに振り分けている。なお、回答者数より記述件数が少ないのは、その多くが「県や世論調査への意見」に該当するものであったため、そちらに振り分けたことに依るものである。

- 質問が多かった。複数項目を選べるようにしたり、優先順位をつけたりできるようになれば、もっと良かった。
(男性、40代、流山市)
- かなりの回答時間を要しました。忙しい人にとっては “やる時間がないのでスルーしよう” とならないように、もう少し内容を絞り、実現可能な対策を考えることに使えるアンケートにした方がよいと感じました。
(女性、50代、千葉市)
- キャッシュレス決済をする人が増えているのは時代の流れだとわかりますが、現金払いの方も多いと思います。支払い時、もたつき、厳しい目で見られていることも、しばしば、AC公共広告機構の様な優しさを求める啓発も必要だと思います。
(女性、50代、浦安市)
- 仕事や育児で時間に追われている中、質問数が多く少し大変だった。回答した意見が今後、県の何かに役立つと嬉しいです。
(女性、30代、千葉市)
- 回答でまようことが多く、自分の意見を正確に言えたか、自信がありません。
(男性、75歳以上、浦安市)
- 問43「県政全般について、今後特に力をいれてほしいと思われること」の選択肢に「県民の所得が上がる」といったものがないのが残念です。県民の生活が豊かになるうえで今とても大事だと思っています。
(男性、20代、松戸市)
- 選択方式なので、アンケートに取り組みやすかった。
(女性、40代、我孫子市)
- 道路は同じ千葉県内でも地域差が大きいので、お住まいの地域のとは書いていなかったが、住んでいる地域のことを入力した。
(女性、75歳以上、千葉市)